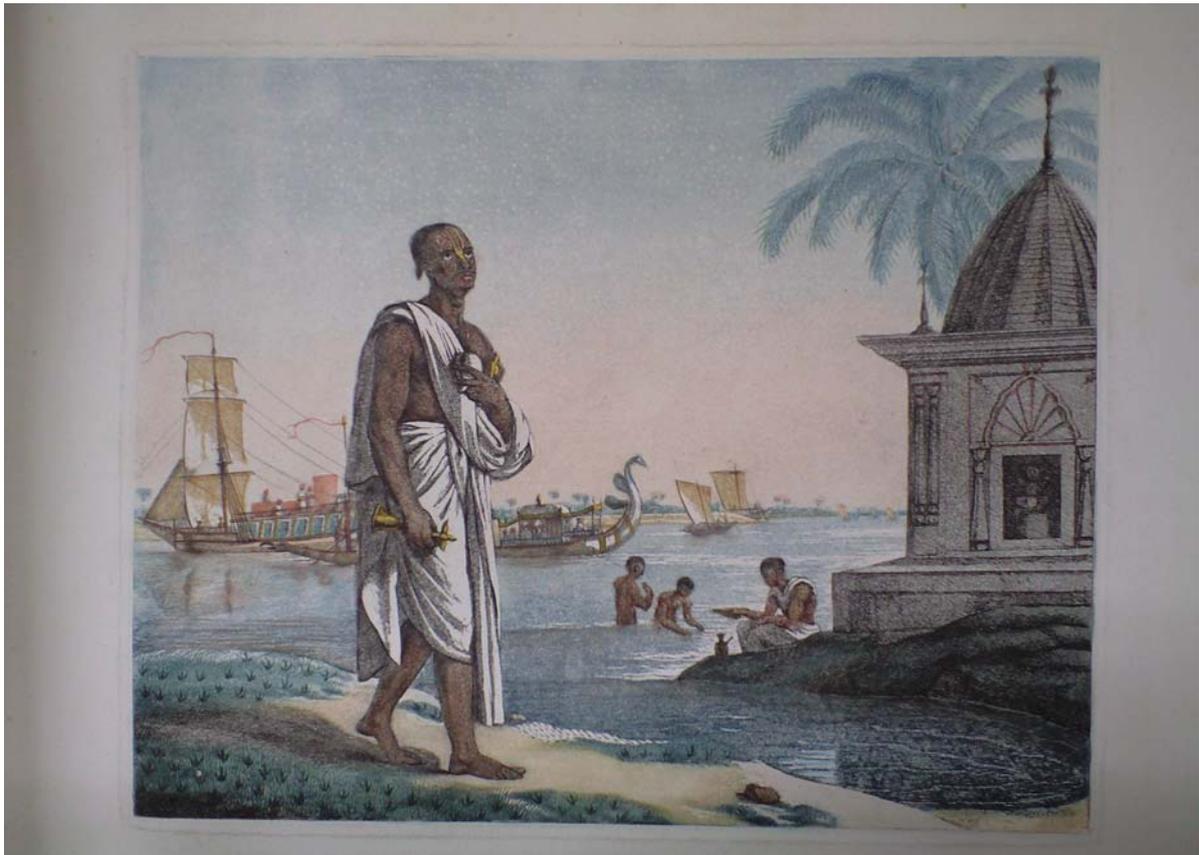


東京外国語大学附属図書館貴重書展示会

南アジア研究の足跡

— 本学におけるウルドゥー語・ヒンディー語教育の100年 —



(上) HS-① Les Hindous, t. 1 タイトルページより

開催期間

平成20年11月17日(月)～12月14日(日)

月曜日～金曜日 9時00分～21時45分

土曜日・日曜日 13時00分～18時45分

(11月19日～21日、25日 9時00分～17時00分)

(11月22日～24日 休館)

会場

東京外国語大学附属図書館 1階ギャラリー

序

本学においてウルドゥー語・ヒンディー語の教育が始まって今年でちょうど 100 年になるのを記念して、図書館所蔵の貴重書の中から、南アジア関係のものを紹介します。

長き教育・研究の歴史のなかで、研究資料としての貴重書収集にとりわけ多大な力が傾注された時期が 2 回ありました。1 回目は昭和 46 年と 48 年に実施された東京外国語大学・東京大学東洋文化研究所合同海外学術調査団による南アジア地域の学術資料収集であり、2 回目が平成 14 年から 5 カ年にわたって遂行された 21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」の活動の中で非収奪的に収集、デジタル化・ウェブ公開されている資料の南アジア関連のものです。昭和期の調査団によって収集された文献資料は、「インド・パーキスタン宗教調査関係文献」と「ナワルキショール・コレクション」とからなりますが、今回の展示では、おもに後者から選り出し紹介しています。

ナワルキショールとは、創業社主ムンシー・ナワルキショール (Munshi Navalkishor) の苗字が冠された、北インド・ラクナウの出版社です。同氏の代 (1836-1895) だけでも 4,000 点以上の書籍が刊行されたと言われ、近代インドの出版・文化に極めて重要な役割をはたしたことが認められます。その意義は最近公表されたシカゴ大学の Ulrike Stark の研究によっても明らかです (*An Empire of Books: The Naval Kishore Press and the Diffusion of the Printed Word in Colonial India, 1858-1895*, New Delhi, Permanent Black, 2007) (本学の HP <http://repository.tufs.ac.jp/doc/sarda/about_j.html>にも詳しい紹介があります)。

このナワルキショール出版社によって刊行された書籍をまとめた形で所蔵するのは本学のほかに、大英図書館、アメリカ議会図書館、シカゴ大学図書館であります。約 1,000 点 (正確には 968 冊: うちウルドゥー語 354 冊、ヒンディー語およびサンスクリット語 531 冊、ペルシア語・アラビア語 83 冊) 所蔵する本学のコレクションは、世界的にも注目されるものと言えますよう。

また、21 世紀 COE プログラム「史資料ハブ地域文化研究拠点」によって収集した南アジア研究関連のなかからも、本邦初のお披露目となるものも含めて、大変貴重な書籍が展示されています。

どうぞ、ゆっくりご鑑賞ください。

(編集注)

* 展示資料のうち、以下のものは本学学術成果コレクション (**Prometheus-Academic Collections**) において全文ないしは一部が画像で公開されています。合わせてご覧ください。

- ・全文画像が公開されている資料: U-①~③、U-⑤~⑦、U-⑨、U-⑪~⑮、HS-①~⑭
- ・標題紙、目次等の画像が公開されている資料: U-④、U-⑧

Prometheus-Academic Collections は下記の URL からアクセスできます。

<http://repository.tufs.ac.jp/doc/>

各展示資料解説の末尾にある「請求記号」を上記 URL のページにアクセスして表示される検索キーワード入力フィールドに入力し、検索してください。

ウルドゥー語展示資料解説

選定・解説：本学外国語学部准教授 麻田 豊

展示資料番号U-①

ابوالفیض فیضی، داستان امیر حمزہ صاحبقران، لکھنؤ، نو لکھنؤ، ۱۹۰۴-

Abūlfaiz Faizī, *Dāstān-i Amīr Ḥamzah ṣāhibqirān*, Lakhna'ū, Navalkishor, 1904-

طوطارام شایان، طلسم شایان، معروف بہ داستان امیر حمزہ، مرتبہ ۵، لکھنؤ، نو لکھنؤ، ۱۸۸۷

Ṭoṭā Rām Shāyān, *Ṭilism-i Shāyān, ma'rūf bah Dāstān-i Amīr Ḥamzah*, Martabah-i 5,

Lakhna'ū, Navalkishor, 1887

『アミール・ハムザの物語』アブル・ファイズ・ファイズィー著。1904年からラクナウにて刊行開始。

原本はペルシャ語で、その著者ファイズィー(1547-1595)はムガル朝第3代皇帝アクバルの娯楽のためにこの物語を著した。弟のアブル・ファズルは歴史書『アクバル・ナーマ』の作者として著名。

ウルドゥー語による「ダースターン(伝奇物語)」の白眉。主人公のアミール・ハムザは預言者ムハンマドのおじにあたる実在の人物。第1巻第1部の巻頭に全8書全17巻の目次が掲げられている。中でも第1書「ナウシェールワーン・ナーマ」2巻と第5書「ティリスメ・ホーシュルバー」7巻は現在でも広く読まれている。韻文訳にトーター・ラーム“シャーヤーン(当を得た)”による『当を得た魔法(Tilism-e shayan)』(1887年刊、第5版)がある。また、最新刊の英訳に *The Adventures of Amir Hamza* (Tr. by Musharraf Ali Farooqi, New York, Modern Library, 2007)がある。

(請求記号：SARDA-NKU/929.933/176774, SARDA-NKU/929.851/177066)

展示資料番号U-②

تنکیر رائے، قصہ ماتم طائی منظوم، لکھنؤ، نو لکھنؤ، ۱۸۸۸

Tansukh Rā'e, *Qiṣṣah-yi Ḥātīm Ṭā'ī manzūm*, Lakhna'ū, Navalkishor, 1888

『ハーティム・ターイー物語(韻文)』タヌスク・ラーエ“ラグバト(熱望)”著。1888年ラクナウ刊。

ペルシャ語で伝わる空想冒険物語のウルドゥー語韻文による翻案作品。主人公のハーティム・ターイー(578年没)はイスラーム創始以前のアラブのキリスト教徒で、気前のよさ、賢さ、勇敢さで名高く、この名前は「寛大さ」の同義語になっている。物語は7章からなり、美女フスン・バーノーが出す7つの質問に基づきそれぞれの話が進行するという形をとっている。平凡社東洋文庫版『アラビアン・ナイト』第8巻*の270夜の話がこれに該当する。複数回映画化され、連続テレビドラマとしても放映されるほど人気がある。

(請求記号：SARDA-NKU/929.851/176654)

(編集注) *前嶋信次訳『アラビアン・ナイト 8』平凡社、1976(東洋文庫290) (請求記号：A/9H1-9/1/8)

展示資料番号U-③

بخش الہی، ناک ہمت عالی، معروف بہ گل بکاوی، لکھنؤ، نو لکھنؤ، ۱۸۹۳

Bak̄sh Ilāhī, Nāṭak Himmat-i ‘ālī, ma’rūf bah Gul-i bakāvalī, Lakhna’ū, Navalkishor, 1893

『戯曲 グレ・バカーワリー：高邁な精神』バフシュ・イラーヒー “ナーミー(著名な)” 著。1893 年ラクナウ一刊。

タージュル・ムルーク王子と妖精バカーワリーのインドを舞台にした冒険と愛の物語を戯曲化した作品の第1部。作者はパトナー市にあるフダー・バフシュ東洋公共図書館の創立者の息子バフシュ・イラーヒー。表紙には「エターワー市の Indian Dilpazir 劇団の依頼による」とある。最初のページには配役は男性 28 人、女性 12 人と指定されている。ト書きもあり、詩の形をとった台詞は歌う部分と朗誦部分とからなる。

この物語は古くは 1625 年のダキニー語 (古ウルドゥー語) による作品があり、近代の作品では『愛の宗教』(ニハールチャンド作、散文、1803 年)、『そよ風の園』(ダヤー・シャンカル “ナスィーム (そよ風)” 作、韻文、1835 年) がある。

(請求記号 : SARDA-NKU/929.852/176766)

展示資料番号U-④

رقن ناتھ سرشار، فسانہ آزاد، جلد ۲، لکھنؤ، نو لکھنؤ، ۱۹۲۹

Ratan Nāth Sarshār, Fasānah-yi Āzād, jild-i 2, Lakhna’ū, Navalkishor, 1929

『アーザードの物語』ラタン・ナート “サルシャール (酔酩した)” 著。1929 年ラクナウ一刊。

この物語は、ナワルキショール・プレス発行の月刊新聞「アワド・アフバル」の付録として 1878 年に連載開始されるや大好評を博した。当時、作者のサルシャール (1846-1903 年) 自身、同紙の編集長であった。初版は 1880 年にナワルキショール・プレスから 4 巻で刊行された。

ダースターン (伝奇物語) と小説の中間に位置づけられる作品。典型的なダースターンの主人公が、ラクナウーの目抜き通りからロシア・トルコ戦争 (1877-1878 年) の戦場までを舞台に活躍する。伝統的な物語の語りの技巧と同時代のニュース記事を盛ることで読者の関心をひきつけた。『ドンキホーテ』のサンチョ・パンサやディケンズの小説『ピックウィックペーパーズ』の主人公になぞらえた善良で滑稽な「コージー」という脇役が登場する。ラクナウー文化を知るための百科事典的性格も有した作品に仕上がっている。

(請求記号 : SARDA-NKU/929.853/177079)



(左) U-②

Qiṣṣah-yi Ḥātim Ṭāī manẓūm

67 ページより

展示資料番号U-⑤

محمد نذیر احمد، رسالہ پند پند، کانپور، نو لکھنور، ۱۸۹۷

Muhammad Nazir Ahmad, *Risālah-yi cand pand, Kānpur, Navalkishor, 1897*

『幾つかの忠言の書』ナズィール・アフマド著。1897年カーンプル刊。

ゴーラクプル県の副徴税官をつとめたことから、一般にはその役職名をつけたデピュティ・ナズィール・アフマドの名で知られる。『花嫁の鏡』『ナスーの後悔』などの小説の作者。この作品は「自分の息子に文字の読み書きを教えた後に読み聞かせるために書き上げた」（表紙の記述）もので、一般読者に供するために、「これまでラクナウーのナワルキショール・プレスで版を重ねてきたが、今回はカーンプルのナワルキショール・プレスから初めて1897年3月に刊行」（奥付の記述）した。表紙裏には刊行年表示詩が掲載され、イスラーム暦1314年（西暦1897年）がはじき出されている。

（請求記号：SARDA-NKU/372.253/176573）

展示資料番号U-⑥

انشائے خان انشاء، کلیات انشاء خان، نو لکھنور، ۱۸۷۶

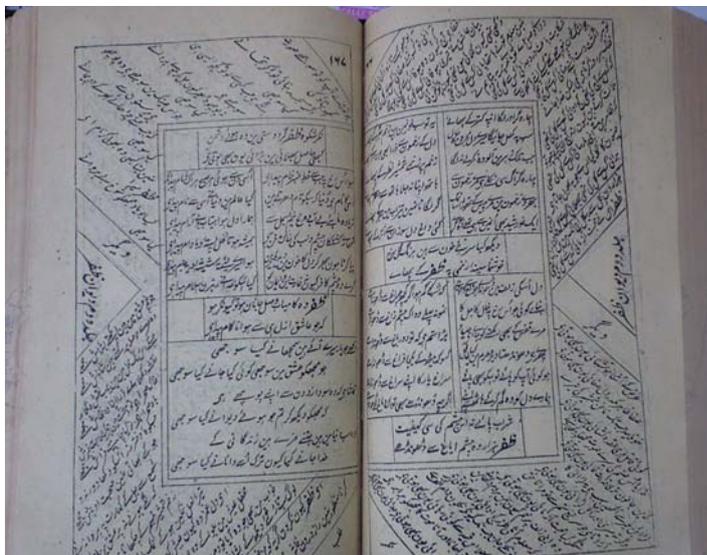
Insha'allāh Khān Insha', *Kulliyāt-i Inshā'allāh Khān*, [S.l.], Navalkishor, 1876

『インシャーッラー・ハーンの詩全集』インシャーッラー・ハーン著。1876年刊、出版地不詳。

乱暴なまでのウィットとユーモアに富み、多芸多才で軽薄な詩人として文学史に名をとどめるインシャー（文体の意の雅号。1766-1818年）は、ウルドゥー語のほか、アラビア語、ペルシャ語、トルコ語に精通していた。この詩全集はかなり古い時期に刊行されたもの。恋愛叙情詩ガザルのほか、後宮の女性言葉を用いたレーフティ一詩や物語詩「乳と米」などすべての詩を収録する。他の書籍同様、ナワルキショール本の特徴である表紙の花模様がここでも採用されている。

インシャーの他の代表作には、外来語を使用せずに純粋ヒンディー語で書いた『ケーターキ女王の物語』やペルシャ語で書いたウルドゥー語の文法書『織細さの大海』（1807年）がある。

（請求記号：SARDA-NKU/929.851/176232）



（左）

U-⑦ *Kulliyāt-i Zafar*

166,167 ページより

展示資料番号U-⑦

محمد بہادر شاہ دوم، کلیات ظفر، کانپور، نوکھنور، ۱۸۸۷

Muhammad Bahādur Shāh II, *Kulliyāt-i Zafar*, Kānpur, Navalkishor, 1887

『ザファルの詩全集』バハードウル・シャー 2 世著。1887 年カーンプル刊。

ムガル朝最後の皇帝バハードウル・シャー 2 世の雅号は「ザファル（勝利）」。

詩人ザウク（嗜好）から多大な影響を受けた。能書家で、13 万詩句を詠んだと言われるが、その多くが難解とされる。一方、伝統的な表現法を用いた歌いやすい形でも詩作し、今日でも多くのガザル（恋愛詩）、ギート（歌謡）が歌われている。詩全集の初版は 1869-1870 年にラクナウで刊行された。

(請求記号 : SARDA-NKU/929.851/176158)

展示資料番号U-⑧

سید محمد خان رند، گلدرستہ عشق، معروف بہ دیوان رند، نوکھنور

Sayyid Muḥammad Khān Rind, *Guldastah-yi 'ishq, ma'rūf bah Dīvān-i Rind*, [S.l.],

Navalkishor

『愛の花束：リンド詩集』サイヤド・ムハンマド・ハーン “リンド”。刊行年、出版地不詳。

リンド（放蕩の意の雅号。1797-1857年）はナワーブ・スィラージュッダウラ・ギヤース・ムハンマド・ハーンの息子として1797年にファイザーバードに生まれる。アワド国の支配者家系と姻戚関係があった。ラクナウ詩派のアーティシュ（火の意の雅号。1846年没）の弟子となった。宮廷で雅号の意味どおりの放蕩生活を送っていたが、師匠の死後は飲酒を絶ち、信心深くなりマッカへの巡礼に出発したが、インド大反乱直前に旅の途中のボンベイで没した。第1ガザル詩集は1834年に自ら編み、第2詩集は死後に編まれた。

余白にも詩がぎっしり書きこまれており、デザイン的にも注目される。Garcin de Tassyの文学史* (M. Garcin de Tassy, *Histoire de la littérature hindouie et hindoustanie*, 2e ed. t. 1-3., Paris, Adolphe Labitte, 1870-1871) には「イスラーム暦1262年（1845-1846年）にカーンプルで206ページで石版印刷され、余白はテキストで満たされている」と書かれている。

(請求記号 : HUB/I1/595848)

展示資料番号U-⑨

محمد یوسف علیشاہ، شرح یوسفی، دیوان حافظ، بار ۲، لکھنؤ، نوکھنور، ۱۹۱۳

Muhammad Yūsuf 'Alīshāh, *Sharḥ-i Yūsufī, Dīvān-i Ḥāfiẓ, Bār-i 2, Lakhna'ū, Navalkishor,*

1913

『ユースフによるハーフィズ詩集注解』ムハンマド・ユースフ・アリーシャー。1913年第2版ラクナウ刊。

イランの神秘主義者でペルシャ語のガザル（恋愛詩）詩人ハーフィズ（1325?-1389?年）の詩集のウルドゥー語による注釈書。この種のペルシャ詩（オマル・ハイヤームの四行詩ルバーイヤートなど）やペルシャ語散文（サアディーの『薔薇園（グリスターン）』など）の注釈本はインドでも数多く出版された。

(請求記号 : SARDA-NKU/929.931/176595)

(編集注) * ヒンディー語訳を所蔵。

गार्सा द तासी, हिंदुई साहित्य का इतिहास, इलाहाबाद, हिंदुस्तानी एकेडेमी, 1953(Gārsām da Tāsī, *Hinduī Sāhitya kā Itihāsa*, Ilāhābāda, Hindustānī Ekāḍemī, 1953) (請求記号 : HUB/I2/617321,I2/9I2-2/12)

展示資料番号U-⑩

محمد کمال الدین حیدر، قیصر التواریخ، بار ۳، کانپور، نو لکھنؤ، ۱۹۰۷

Sayyid Kamāluddīn Ḥaidar, *Qaiṣar at-tavāriḫ*, Bār-i 3, Kānpur, Navalkishor, [1907]

『諸々の歴史の帝王』サイヤド・カマルッディーン・ハイダル著。1907年第3版カーンプル刊。

「アワド王国の歴史」シリーズの第2巻。「世界のスルターン」こと第10代で最後のナワーブ、ワージド・アリー・シャーの治世(1847-1856年)からその息子ミルザー・ビルジース・カドルの時代までの歴史と1857年の大反乱の詳細なる状況が記されている。表紙に以上の大略が記されているのも特徴的である。ナワーブの絵が挿入されている。初版は1896年ラクナウー刊。

(請求記号 : I1/225/21/2)

展示資料番号U-⑪

محمد قاسم ہندو شاہ استرابادی فرشتہ، ترجمہ تاریخ فرشتہ اردو، جلد ۱-۲، لکھنؤ، منشی نو لکھنؤ، ۱۹۱۴

Muḥammad Qāsim Hindū Shāh Astarābādī Firishtah, *Tarjamah-yi tāriḫ-i Firishtah-yi Urdū*, jild-i

1-2, Lakhna'ū, Munshī Navalkishor, 1914

『フィリシュタの歴史のウルドゥー語訳』ムハンマド・カースィム・ヒンドゥー・シャー・アスタラーバーディー “フィリシュタ” 著。1914年ラクナウー刊。

フィリシュタ(天使の意の雅号。1560-1620年)はカスピ海沿岸のアストラバード(現ゴルガーン)生まれ。幼少時に父親がインドのデカン地方へ赴き、要職につく。1589年にフィリシュタはビジャープルに移り、アーディル・シャーヒー朝のスルターン、イブラーヒーム・アーディル・シャー2世の命により本書を執筆し、1606年にスルターンに献上する。多くの点で、今日でも信頼できる歴史書とみなされている。表紙上部に、「能筆による、インドのスルターンたちと聖者たちの包括的な有り様」と書かれている。次の英訳が歴史家によく利用されている。(Tr. by J. Briggs, *History of the Rise of the Mahomedan Power in India till the Year A.D. 1612*, v.1-4, London, 1829)*

(請求記号 : SARDA-NKU/225.04/176811/1, SARDA-NKU/225.04/176811/2)

展示資料番号U-⑫

خواجہ محمد اکرام الدین، تفسیر اردوی سورۃ فاتحہ، مرتبہ ۵، کانپور، نو لکھنؤ، ۱۸۸۷

Khvājah Muḥammad Ikrāmuddīn, *Tafsīr-i Urdū-yi Sūrah-yi Fātiḥah*, Martabah-i 5, Kānpur,

Navalkishor, 1887

『クルアーン開扉章のウルドゥー語による注解』ハージャ・ムハンマド・イクラームッディーン著。1887年第5版カーンプル刊。

クルアーン(コーラン)第1章の「開扉」は「慈悲ふかく慈愛あまねきアッラーの御名において」のバスマラのあと、短い全7節からなる。内容は、第1節「讃えあれ、アッラー、万世の主」で始まり、次に神を最後の審判の日の主宰者として讃え、崇め、神からの救いを求め、最後に迷うことなく正しい道に導かれることを請い願う。繰り返し唱えるべき祈祷句として、ムスリムの日常生活において重要な役割を果たしている。本書はこの7節の内容を注解している。

各ページの中央の本文枠の外には注が施されている。また、ウルドゥー語はナスターリーク書体で、アラビア語からの引用句はナスフ書体で書かれている。

(請求記号 : SARDA-NKU/167.3/176430)

(編集注) *1966年のリプリント版を所蔵。

Tr. by John Briggs, *History of the Rise of the Mahomedan Power in India till the Year A.D. 1612*, Reprint, Calcutta, Editions Indian, 1966 (請求記号 : HUB/K/630808/1, HUB/K/630808/2, HUB/K/630808/3, HUB/K/630808/4)

展示資料番号U-⑬

غلام سرور، حدیقۃ الاولیا، ۲ مرتبہ، کانپور، نوکھنور، ۱۸۸۹

Ghulām Sarvar, *Hadīqat al-auliyā*, 2 martabah, Kānpur, Navalkishor, 1889

『聖者たちの庭園』グラーム・サルワル著。1889年第2版カーンプル刊。

著者グラーム・サルワルは1837年にラホールで生まれる。父からイスラーム伝統医術を学び、スフラワルディー教団に入門、クルアーン解釈、ハディース学（預言者ムハンマドの言行録研究）、イスラーム法、文学、文法、論理学、歴史を究める。当代きっての学者、文学者、詩人、史家であり、年代表示詩詠みを得意とした。1890年、マッカ巡礼に出立し、マディーナ近郊でコレラに罹って没す。

本書はパンジャープのカディーリー教団、チシュティー教団、ナクシュバンディー教団、スフラワルディー教団に属す聖者たちの概要を記したウルドゥー語で著された列伝。著者は1800年代末に同様の列伝『清浄な人たちの宝庫』や『高德な人たちの花園』などをペルシャ語で著している。

(請求記号：SARDA-NKU/167.2/157445)

展示資料番号U-⑭

سید انور علی، کلید باب الحج، ۲ بار، کانپور، نوکھنور، ۱۸۶۱

Sayyid Anvar ‘Alī, *Kalīd-i bāb al-ḥajj*, Bār-i 2, Kānpur, Navalkishor, 1871

『ハッジへの門を開く鍵』サイヤド・アヌワル・アリー。1871年第2版カーンプル刊。

ハッジ（マッカ巡礼）案内書で、マディーナにある預言者モスクやマッカのカアバ神殿の地図を含む実用書。表紙と奥付から、「カーンプル生まれでナワーブガンジ在住の著者サイヤド・アヌワル・アリー“アージズ（無力な）”がラクナウー諸県を含むハイラーバード県租税決算担当特別アシスタント、ムンシー・ブリジ・ラル氏の援助を受けて」出版されたことが読み取れる。カーンプルのナワルキショール・プレスから刊行された。

(請求記号：SARDA-NKU/290.93/176107)

展示資料番号U-⑮

سری رام ماتھردہلوی، سری رام کرت ماہاجرات، لکھنؤ، نوکھنور، ۱۹۳۴

Srī Rām Māthur Dihlavī, *Srī Rām krit Mahābhārat*, Lakhna’ū, Navalkishor, [1944]

『マハーバーラタ』シュリーラーム・マートウル・デヘラヴィー。1944年ラクナウー刊。

ラーマヤナと並ぶヒンドゥー教の大叙事詩マハーバーラタのウルドゥー語訳。5巻を1冊にまとめている。登場人物一人ひとりがイスラームの伝統的な「系統樹」（シャジャラ）に書き込まれているのが珍しい。

マハーバーラタのウルドゥー語訳としては、トーター・ラーム“シャーヤーン（当を得た）”（1880年没）がペルシャ語抄訳とサンスクリット原典をもとにした韻文訳が名高い。

(請求記号：SARDA-NKU/929.881/157130)

ヒンディー語・サンスクリット語展示資料解説

選定・解説：本学外国語学部教授 水野 善文

展示資料番号HS-①

F. Baltazard Solvyns, *Les Hindouïs*, t. 1-4, Paris, Chez l'auteur, 1808-1812

ソルヴァン『インド誌』全4巻の初版。288葉の手彩色エッチング・ビネット。

著者の François Balthazar Solvyns (1760-1824)は、アントワープ生まれ。1790年にインドに向け旅立ち、1803年までベンガル地方に滞在。本国帰着後に刊行したのが本書。18世紀末から19世紀初頭にかけてのインドのありさまが、生き生きと描かれており、民族誌資料としても貴重であるばかりか、19世紀の「東インド会社派」と呼ばれる絵画様式の新モデルとなったことでも知られている。少数しか刊行されなかった本書を所蔵する図書館は、世界的に見ても限られている。特に本書は、余白部分がカットされることなく残っていることから貴重であり、イギリス国立図書館蔵本よりも程度がよい文字通りの稀覯本となっている。

(請求記号：HUB/N/610942/1, HUB/N/610942/2, HUB/N/610942/3, HUB/N/610942/4)

展示資料番号HS-②

Meerza Kazim Ulee Juwan and Lulloo Lal, *Singhasun butteese, or, Anecdotes of the celebrated Bikrmajeet*, Calcutta, The College of Fort William, 1805

説話集『獅子座三十二話』のヒンディー語版。玉座に彫刻された32体の女人像がそれぞれ一話ずつヴィクラーマ王の寛大なる所行を物語る構成となっている。サンスクリット語版は13世紀ころに成立したとされるが伝本は4系統認められる。この(ヒンディー語)版は、先行したブラジ・バーシャー語からの翻訳。文体は、現在でいうヒンディー語だが、本書ではヒンドウスターニー語とされているのは、ブラジ・バーシャーが、当時の文学規範言語だったことによる。サンスクリット版と共通する話は全体の3分の1に過ぎない。1800年カルカッタに設立された Fort William College による出版。

翻訳者は、同校に雇用されていたムンシー(語学教師補)。わけでも、ラッラー・ラールは、ヒンディー語散文体の成立期において、大きな役割を果たした。

本書は、デーヴァナーガリー文字印刷史・文字史において、最初期の見本。

(請求記号：I2/9I2-9/506829)

展示資料番号HS-③

[तुलसीदास], [राम चरित मानस], अथ उत्तर काण्ड, [लखनऊ], [नवलकिशोर]

[Tulasīdāsa], [*Rāma carita mānasa*], *Atha Uttara kāṇḍa*, [Lakhanāu], [Navalakiśora]

トゥルシーダース『ラーム・チャリット・マーナス』、最終第7巻「大団円の巻」。

ヴァールミーキに帰せられるサンスクリットの『ラーマヤナ』に発する無数のラーマ物語のうち、中世後期ヒンディー語アワディー方言で記されたもの。ラーマの聖地がこの言語使用地域内に位置し、これ以外の地域においてもラーマ物語の多くはアワディー方言で記された。

北インド有数の出版社であったナワルキショールは、クリシュナ神およびラーマ神に対するバクティ(帰依)信仰の重要な文献の出版、普及にも貢献した。本書の刊行年は未詳だが、記録によれば『ラーム・チャリット・マーナス』は1863年に同社から初版が刊行されている。

(請求記号：SARDA-NKH/929.831/212534)

展示資料番号HS-④

महाबीर दास मालवीय, *गीतरामायण*, लखनऊ, नवलकिशोर, १८१३

Mahābīra Dāsa Mālaviya, *Gītarāmāyaṇa*, Lakhanaū, Navalakiśora, 1813

これも、ヴァールミーキに帰せられるサンスクリットの『ラーマヤナ』に発する無数のラーマ物語の、ひとつの変容形である。中世後期のラーマ物語の常套として、これもヒンディー語アワディー方言が用いられている。各巻の概要を、甘美な歌で表現し、簡潔にまとめられている。ラーマ物語が如何に愛好されたが分かる。

北インド有数の出版社であったナワルキショールより刊行された。

(請求記号 : [SARDA-NKH/929.831/177494](#))

展示資料番号HS-⑤

गोकुलनाथ, *महाभारतदर्पणे*, ३. बार, १.-२. भाग, लखनऊ, नवलकिशोर, १८९१

Gokulanātha, *Mahābhāratadarppaṇe*, 3. bāra, 1.-2. bhāga, Lakhanaū, Navalakiśora, 1891

サンスクリットの二大叙事詩のひとつ『マハーバーラタ』のヒンディー語による訳注書。サンスクリットの『マハーバーラタ』は太古のインドで起こったとされるカウラヴァ族とパーンダヴァ族という同族間の戦争を描くあらすじのなかに、多くの伝承、神話が組み込まれ、百科全書的内容を呈し、全体で18巻、約10万詩節（ほとんどの詩節は32音節からなるシュローカという韻律からなる）からなる。

1820年代より、バナーラスなどに居住したマハーラージャー（藩王）のなかに、私財を投じて伝統的なヒンドゥーの叙事詩を民衆語に訳して商業出版しようとする者が登場するが、1870から80年代、そうした形の出版がナワルキショールで数多く手掛けられた。本書もその類の出版物である。

(請求記号 : [SARDA-NKH/929.881/177463/1](#), [SARDA-NKH/929.881/177463/2](#))



(左)

HS-⑫ Kāśīmāhātmya

最終ページより

展示資料番号HS-⑥

रायचन्द नागर, *गीतगोविन्दादर्श*, १०. बार, लखनऊ, नवलकिशोर, १९२६

Rāyacanda Nāgara, *Gītagovindādarśa*, 10. bāra, Lakhanaū, Navalakiśora, 1926

クリシュナ神に対する熱烈なバクティ信仰を、非常に官能的な表現で歌う『ギータゴヴィンダ』(12世紀、ベンガル、サンスクリット語)に対するヒンディー語アワディー方言による注釈。サンスクリットの『ギータゴヴィンダ』は、言語はサンスクリットだが、当時巷間に愛好された民謡形式が部分的に採用されており、近代語文学への移行を予見する作品と評される。また、広くインド全域に演劇の形で伝わった。

本書は、バナーラスのマハーラージャー(藩王)であるシヴウ・プラサードが、もともと祖父ダールチャンドが企画しながら実現しなかった翻訳出版を、私財を投じて、1875年にナワルキショールより出版させたものの第10刷である。

(請求記号: SARDA-NKH/929.881/157314)

展示資料番号HS-⑦

दुर्गाप्रसाद शुक्ल, *मिताक्षरा स० प्रायश्चित्तकाण्ड*, [लखनऊ], [नवलकिशोर], [१८८८]

Durgāprasāda Śukla, *Mitāksharā sa. prāyaścittakāṇḍa*, [Lakhanaū], [Navalakiśora], [1888]

インドには古来より、いわゆる法典類が数多存在し、ヒンドゥーの生活規範を提供してきた。3~4世紀に成立されたとされる『ヤジュニャヴァルキヤ法典』の注釈書として1120年ころデカン・チャールキヤ朝下で編まれたのが『ミタークシャラー』で、本書はそのヒンディー語による訳書。Colebrookeによる英訳(Tr. by H.T. Colebrooke, *Two Treatises on the Hindu Law of Inheritance*, Calcutta, Hindoostanee Press, 1810)により、1840年代以降の官吏教育に供されていたが、ヒンディー語訳はウダイプールの藩王サッジャイシンプの命により、15年の歳月をかけて1888年に完成、同年ナワルキショール出版が、もうひとつの法典『マヌ法典』のヒンディー語訳ともども著作権を獲得、出版した。

この法律書はとりわけ相続、財産といった家族法に特徴があり、イギリス領地時代、ベンガル地方をのぞく各地に、これにもとづく法律が制定された。

(請求記号: SARDA-NKH/322.25/177509)

展示資料番号HS-⑧

केशवदास, *कवि-प्रिया*, ७. बार, लखनऊ, नवलकिशोर, १९२४

Keśavadāsa, *Kavi-priyā*, 7. bāra, Lakhanaū, Navalakiśora, 1924

ヒンディー語の方言のひとつブラジ・バーシャーによって創作した詩人にして詩論家のケーシャヴ・ダース(1555-1617)によって記された修辞学書。ナワルキショールによる出版の第7刷(第1刷は1880年)。

ケーシャヴ・ダースは、中世ヒンディー文学のうち、詩作法を重んじる詩人たちが多く排出された、いわゆるリーティ・カール(詩作法時代)を代表する詩人である。ヒンディー文学において重要なケーシャヴ・ダースの出版がナワルキショールで比較的遅れたのは、社主ナワルキショールが、難解なケーシャヴの詩の正確な解釈に配慮したからだと思われる。

掲示されている頁には、いわゆる回文のように、上から読んでも下から読んでも同じになる、言葉遊びの技巧が凝らされた詩の一例が示されている。

(請求記号: SARDA-NKH/929.831/177445)

展示資料番号HS-⑨

बिहारीलाल, *बिहारीसतसई सटीक*, ९. बार, लखनऊ, नवलकिशोर, १९२७

Bihārīlāla, *Bihārīsatasāī saṭīka*, 9. bāra, Lakhanaū, Navalakiśora , 1927

ブラジ・パーシャー（ヒンディー語の方言のひとつ）により創作した詩人ビハーリーラール（1595-1663）による抒情詩集『七百詩撰』。文法体系が整備されたサンスクリット語に対置する日常語に近いプラークリット諸語のひとつマハーラーシュトリー語で記された抒情詩集『サッタサイー』の流れをくむ恋愛抒情詩集。各詩節の多くは、ヒーロー、ヒロイン、仲介者としての女友達の3者のうちの2者間に交わされる会話の体裁をとる。

本書は、その詩集の各詩節に対して、クリシュナダッタが、韻律などに重点をおき、ヒンディー語で注釈したもの。1876年刊行の初版の第7刷。

これも、ナワルキショールが内容の正確さを吟味するあまり、出版に至るまでに多大な時間を要したと言われる。

(請求記号 : [SARDA-NKH/929.831/177378](#))

展示資料番号HS-⑩

श्रीपालसिंह, *बारहमासा*, लखनऊ, नवलकिशोर, १८९७

Śrīpālasimha, *Bārahmāsā*, Lakhanaū, Navalakiśora, 1897

季節の移ろいを一か月ずつ特徴的な風物誌を織り込みつつ詠んだ詩の集成『十二ヶ月詩集』。

有名なサンスクリットの宮廷詩人カーリダーサに帰せられるサンスクリット語の『季節のめぐり』はインドの暦上の季節6つのそれぞれについて、我々の俳句のような季語を織りこんだ詩を150ほど集めた詩集だが、これもその文芸伝統の流れのなかにある。また、同じくカーリダーサに発するとされる使者（ドゥータ）文学との関係も指摘されているが、中世期以降のペルシア文学との関連からも重要なジャンルとなっている。

庶民的な感覚から風物詩が詠まれている本書のように、この文芸伝統は、早くから巷間に愛好され、今日まで伝わったようだ。

北インド有数の出版社であったナワルキショールより刊行された。

(請求記号 : [SARDA-NKH/929.831/157318](#))

展示資料番号HS-⑪

रायचन्द्र, *कल्पभाष्य*, लखनऊ, नवलकिशोर, १८८७

Rāyacanda, *Kalpabhāshya*, Lakhanaū, Navalakiśora, 1887

祭式を重要視するヴェーダの伝統のなかで、実際の祭式の運用に関して規定しているカルパ・ストラと呼ばれ、ヴェーダ補助学のひとつのジャンルをなす文献群が存在するが、この書は、そのジャンルに相当することを想定してヒンディー語の方言ブラジ・パーシャーで記したものである。

本書が成立する経緯に関しては未詳だが、司祭者階級であるバラモン独占するジャンルの文献が、民衆の言語で記された事実が興味深い。

北インド有数の出版社であったナワルキショールより刊行された。

(請求記号 : [SARDA-NKH/126.2/157324](#))

展示資料番号HS-⑫

काशीमाहात्म्य, लखनऊ, नवलकिशोर, [१९-]

Kāśīmāhātmya, Lakhanaū, Navalakiśora, [19-]

ヒンディー語によるバナーラス因縁譚。

インド最大の聖地バナーラスは、仏教が起こったところカーシーという国の都であったが、この国名が都市名と同置して使用されることがしばしばだった。この書は、そのカーシーが聖地として成立した神話的因縁譚を記述している。こうした様々な因縁譚はサンスクリットで「マーハートミヤ」と呼ばれ、各種のプラーナ文献中に保存されている。このバナーラス因縁譚も『パドマ・プラーナ』からの抜粋である。

北インド有数の出版社であったナワルキショールより刊行された。

(請求記号 : [SARDA-NKS/168/157222](#))

展示資料番号HS-⑬

गणपति, मुहूर्त्त गणपति, २. बार, लखनऊ, नवलकिशोर, १८८५

Gaṇapati, Muhūrta Gaṇapati, 2. bāra, Lakhanaū, Navalakiśora, 1885

サンスクリットの天文学書『ムフルタ・ガナパッティ』。初版 1875 年の第 2 刷。古来インドにおいては祭事に必須の事項として天文学、および暦法、さらには占星術が考究され続けてきた。西方からの知識も受け入れながら、高度な学問分野であった。数学、医学なども含めて、自然科学の進展も目に見張るものがあった。

ナワルキショール出版では、1874 年から、そうした伝統的な自然科学のサンスクリット文献を、ときにヒンディー語の注釈つきで、シリーズとして出版している。本書も、その出版活動の一端と見ることが出来よう。

(請求記号 : [SARDA-NKH/148.8/157305](#))

展示資料番号HS-⑭

भुवदेव दुबे, प्रबोधचन्द्रोदयनाटक, लखनऊ, नवलकिशोर, १८९३

Bhuvadeva Dube, Prabodhacandrodayanāṭaka, Lakhanaū, Navalakiśora, 1893

11 世紀ころの詩人クリシュナ・ミシュラによるサンスクリットの寓意劇『ブラボーダチャンドローダヤ』のヒンディー語版。迷妄、憤怒、愛欲、など人間の感情をあらゆる抽象的概念が登場人物となって筋が展開する。ヴェーダーンタ哲学にみる不二元論を基礎としているといわれる。

バナーラスに生まれた夭逝の文人バーラテンドウ・ハリシュチャンドラ (1850-1885) は近代ヒンディー文学の草創をなす重要な人物だが、彼の戯曲作品にも『ブラボーダチャンドローダヤ』の影響が認められるという。

北インド有数の出版社であったナワルキショールより刊行された。

(請求記号 : [SARDA-NKH/929.832/157365](#))



(上) HS-⑥ Gītagovindādarśa 表紙より